

Minato
City

2020

港区
みどりの街づくり賞
景観街づくり賞
区民景観セレクション

令和2(2020)年度 受賞施設等



目次

港区みどりの街づくり賞 受賞施設 01

住友不動産御成門タワー
バウスステージ南青山

審査会委員総評(港区みどりの街づくり賞) 03

港区景観街づくり賞 受賞施設 04

とらや 赤坂店
カナルフロント芝浦

港区景観街づくり賞 奨励賞 受賞施設 06

新虎通りCORE
パークコート赤坂檜町ザタワー
HIKAWA GARDENS AKASAKA
自動車部品会館 高輪さつき保育園

港区景観街づくり賞 特別賞 受賞団体 10

港区アドプト・プログラムー道路・公園のボランティア活動

審査会委員総評(港区景観街づくり賞) 11

港区区民景観セレクション 受賞景観 12

愛宕神社参道の石段《グランプリ》
麻布十番商店街にある広場「パティオ十番」《グランプリ》
赤坂氷川神社(氷川坂から)
六本木さくら坂
赤坂三分坂
有栖川宮記念公園の散策路
愛宕隧道と愛宕山
南部坂
高浜運河から望むライトアップされた御楯橋
日の出棧橋倉庫群

審査会委員総評(港区区民景観セレクション) 16

港区みどりの街づくり賞とは

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の緑化施設を表彰し、地域緑化への協力を感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設しました。

対象

原則として、前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を満たしているもの

審査・選定基準

学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する港区みどりの街づくり賞選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。

①周辺の景観と調和し、優れたデザインであること / ②維持管理が適切に行われていること / ③自然環境の保護と再生に努めていること / ④建築物と植栽地がバランスよく配置されていること / ⑤既存樹木を活用していること / ⑥あらゆる生きものが、相互に関わり合いながら生きられる生物多様性に配慮した植栽計画となっていること / ⑦在来植物を取り入れていること / ⑧地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献度及びみどりの公開性が高いこと / ⑨先進的又は総合的にレベルの高い緑化技術を取り入れ、新しい緑の創出に創意工夫がなされていること

港区景観街づくり賞とは

港区では、平成21年に港区景観条例を施行し、同年に港区景観計画を策定しました。これらの条例・計画に基づき、建築物の建築等の際に区との景観協議を義務付け、助言・指導を行っています。

「景観街づくり賞」は、良好な景観の形成に関して功績のあった民間の施設や活動を表彰することで、皆さんの景観に対する意識の向上を図るとともに魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

港区景観街づくり賞・景観街づくり賞奨励賞

対象

区と景観協議を行った民間施設のうち、前々年度に完了報告書が提出されたもの

審査・選定基準

港区景観審議会委員、港区景観アドバイザー及び街づくり支援部長で組織する港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。

①周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの / ②建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの / ③地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの / ④地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの / ⑤都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの

その他

特に優れていると認める施設を「景観街づくり賞」に、より一層の良好な景観形成を期待する施設を「景観街づくり賞奨励賞」に選定し、各受賞者に記念品を贈呈

港区景観街づくり賞特別賞

港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

港区区民景観セレクションとは

「区民景観セレクション」は、区民が誇り、愛着を持つ景観を募集・表彰することで、良好な景観の周知・共有を図るため、平成29年度に創設しました。

対象

「区民が誇り、愛着を持つ街並みその他の景観」として区民等により応募されたもの

審査・選定基準

景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。

①地域性が感じられるもの / ②波及性があるもの / ③発見性があるもの

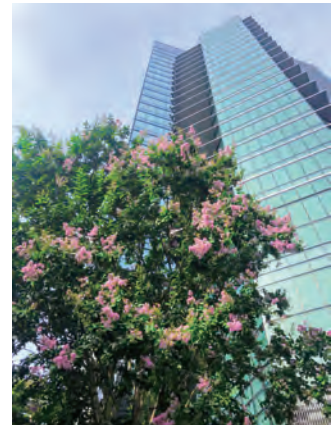
その他

グランプリを選び、その応募者に記念品を贈呈

港区みどりの街づくり賞受賞施設

住友不動産御成門タワー

- 事業主：住友不動産株式会社
- 設計者：株式会社日建設計
- 施工者：三井住友建設株式会社
住友林業緑化株式会社（植栽）
株式会社日比谷アメニス（植栽）
- 所在地：芝公園一丁目1番1号
- 施設用途：事務所、集会所
- 敷地面積：3,710.24㎡ ●緑化面積：1,061.25㎡
- 接道部緑化延長：79.2m ●緑化面積率：29%
- 接道部緑化率：64%



選定にあたっての評価コメント

①既存の緑地の存在を軸に、みどりのネットワークが生まれ、対象地をうまく位置づけている。とくに芝公園のみどりと縁づけることで、芝公園の既存のみどりをワガモノとする工夫が込められている。大規模な再開発でありがちな、広々としたオープンスペースではなく、既存木、植栽木で構成された空間が用意され、落ち着いた雰囲気醸し出している。地下鉄の出入口を擁す当地は多くの人々が目にする新たなみどりの拠点となっている。

②本計画の特筆すべき点は、やはり芝公園との連続性・一体性を形成し、日比谷通りの緑の軸を強化した点であろう。それが、俯瞰的なスケールでの概念的操作に終わることなく、周辺の緑地や樹種、市街地などの性質から導かれた、性格の異なる緑地帯の群を形成することで、実現している点である。それによって、また地下鉄出入口やバンチのある休憩所が、緑豊かな公開空地として、ゆたかな公共空間体験を形成している。



港区みどりの街づくり賞受賞施設

ハウスステージ南青山

- 所有者：日本土地建物株式会社
- 設計者：株式会社佐藤総合計画
- 施工者：株式会社増岡組
- 所在地：南青山四丁目8番19号
- 施設用途：共同住宅
- 敷地面積：934.98㎡ ●緑化面積：72.26㎡
- 接道部緑化延長：47.42m
- 緑化面積率：8% ●接道部緑化率：77%



選定にあたっての評価コメント

①白いアナベルの花が満開な頃はこの建物の前を行き交う人たちは幸せになるなと思います。アナベルは草のような性質があるためツツジ等の庭木に比べ、ちょっと手間のかかる樹木です。それを多く使い、植栽地の縁に照明を取り込んだ絶妙な高さのコンクリート縁でぐるりと整えたデザインも良い。コロナ禍で散歩をする人が増え、あらためて近所の緑地や景観の良さが見直されていますので、事業者の方々は奮ってこのような素敵な景観をつくってください。

②この作品の設計者が狙いとした3原則、つまり①南青山の街並みに調和する ②都心にいながら自然を感じる ③都心の多様なライフスタイルを支える という課題を見事に表現したさわやかさを感じさせてくれている。例えばセピア色の透かし積みレンガの壁面とそれを取り囲む植栽のみどりとのおっとりとした調和感、そしてそのレンガ積みのすき間を通り抜けた風が建物沿いの枝葉を揺らしながら流れてゆく様は、日本の“和の風土”を醸し出している。



港区みどりの街づくり賞 審査会委員総評



千葉大学名誉教授

赤坂 信

**大規模開発と
それに伴う社会的責任**

今回は最終的に2点が受賞の対象となった。「みどりの街づくり」というだけあって、敷地内だけではなく、周辺景観との調和、地区への貢献度・みどりの公開性も審査の対象となる。最終審査に残ったものは3階から30階以上まで、建物の規模、用途はさまざま。規模の小さなものでも地区への貢献度が高ければ評価される。では、大規模な再開発における場合はどうか。規模が大きければ大きいほど社会的な影響が大きいことは明らかだ。人の流れ、また車の流れさえ大きく変える場合がある。それだけ社会的責任が大きい。たとえば建物の「規模が大きい」「眺望がいい」を誇ることができても、それがどのような社会的貢献になるのか。その受益者が、マンションの住民のみ、会社役員のみでは、社会貢献とはならない。影響が大きいほど、そのビルのそばを通る人や住む人への配慮、サービスが求められる時代だ。これが双方の交流に至れば、新しい街づくりに展開する可能性となるだろう。



港区景観審議会委員
日本大学短期大学部
建築・生活デザイン学科 准教授
有限会社GAヤマザキ 取締役

山崎 誠子

港区の多様性

私は港区の環境審議会の委員でもあります。その委員会では、2020年9月現在、港区が目指す環境像について活発な審議を行っています。その中で語られる港区の重要キーワードが、多様性、国際性、歴史、自然です。港区というバリバリの都心というイメージがある人が多いでしょうが、武蔵野台地の末端に位置し、海にも接することから地形も変化に富み、白金台には自然豊かな国立科学博物館附属自然教育園もあることで貴重な自然と人工的な都会が混在するまさに多様な環境の区なのです。今回の候補作品は赤坂、南青山、元麻布、港南、浜松町、芝公園と港区全般に広がっていて、それぞれの地形や、周辺の建物用途や街路、空間、景色をうまく取り入れたものばかりでした。受賞作品は、その中でもその建物の利用者だけでなく、その周辺を行き交う人々にも快適な空間をより提供できていることが受賞につながったと思います。



公益社団法人
観音崎自然博物館 前理事長
技術士(都市計画)

高橋 雅雄

“前人栽樹 後人涼”を夢見て

みどりのまちづくりへの市民の関心は確実に高くなっている。特に高層化、巨大化する建物周辺の緑化での質的、量的の両面でそれが感じられる。しかし区内で100年以上を経たクロマツの巨樹が、台風によって根元から倒れる事例を目の当たりにすると、新たに植えた大型樹木が、台風時のビル風により倒れ、道路機能への障害や人的被害につながるものが危惧される。従って、植栽地盤の土壌に始まって普段の剪定整枝、場合によっては建築本体との連結など、樹木に対する日頃の細心な手当ての必要性を痛感する。比較的小規模建築で軒下、窓辺、室内で鉢植植物を見かけるが、一般的に植物の生育環境としては劣悪な所が多く、植物の種類を選定に十分な検討を願いたい。話は変わるが、区内には研究所、旧宅、学校等比較的広大な施設が多く、植栽空間が残されている事例を見る。そこへの緑化推進のための要請をきめ細かく進める制度の創設を望んでいる。



港区景観アドバイザー
SUGAWARADAISUKE建築事務所代表取締役
法政大学・工学院大学非常勤講師

菅原 大輔

みどりの街づくり賞によせて

本年の審査では、評価軸の設定が非常に困難であった。受賞施設は、結果として比較的規模が大きなものとなっているが、審査時に意識したことは、むしろ「規模」の大小ではなく、みどりにこめた「思想」や「技術」の質に対する評価だった。現地審査で訪れた施設では、非常に高いレベルで多種多様な「みどり」が実現されていた。それは、環境問題含め、都市のみどりの役割や価値が広く社会に認知され、そのデザイン思想や実現する技術が高いレベルで普及していることの表れでもある。

一方で、賞の名前が示す通り、「みどり」で「街づくり」に対する成果を評価する本賞において、周辺環境や歴史的な文脈を丁寧に分析・評価し、問題解決や新しい価値につなげることで、実際に体感できる公共空間として、まちを生き活きとさせることが重要である。それを実現していたのが受賞した2施設である。質の高いみどりがさらに普及し、評価軸の更新を求める、そんな港区みどりの風景に期待を持った。

